

教材名 「五十五年目の恩返し」(光村図書6年 p.140 「感謝」)

「杉原千畝—大勢の人の命を救った外交官」(日本文教出版6年 p.99 「社会正義」)

「六千人の命を救った決断—杉原千畝」(光文書院6年 p.115 「社会正義」)

「六千人の命のビザ—杉原千畝—」(教育出版6年 p.72 「よりよく生きる喜び」)

1 本教材について

上記の4つの教材は、いずれも杉原千畝の人的行為の意義を伝える偉人伝である。杉原の行為は当時の世界的な厳しい政治状況に抵抗しておこなわれたものなので、当然それとの関係で杉原の行動の意義を明らかにしなければならない。ユダヤ人たちはなぜポーランドから脱出しなければならなかったのか、ビザの発給がなぜ困難だったのか、当時の日本とドイツとの関係という歴史的背景を伝えることによって、杉原の決断の意義がいつそう明確になる。

ところが、4社の教材はいずれもそこがあいまいにされている。光村図書と日本文教出版の記述では、ユダヤ人が亡命先までの渡航費用を十分に持っていなかったことが主要な理由であるかのように記述されている。これは文科省が検定意見をつけたことによって、記述が改悪されたからである。[資料1]

したがって、この教材の学習においてはユダヤ人避難民に対する当時の日本政府の方針について補足する必要がある。[資料2]

またのちに、杉原がイスラエル政府から表彰されたことには4社ともに触れているが、戦後、杉原が外務省を解雇されたこと(表向きは依願退職)には触れていないので、これも補足したい。[資料3]

この教材では日本政府と杉原の関係の部分があいまいにされ、日本政府に批判が向かないようにされている。しかし、それでは当時の杉原の置かれた状況の困難さと決断の意義が鮮明にならないので、ぜひ補足資料を活用してほしい。

この教材にはある程度、歴史的知識が必要である。したがって歴史の学習を済ませた6年生の後半に学習することをお薦めする。

2 本教材を扱う際に、特に注意すべきこと

杉原千畝の教材において子どもたちに最も考えさせたいことは、自分の信念と所属集団あるいは国家の方針・命令とが異なった時、どのように考え行動するのかである。杉原は立派な人物だったと感動するだけに終わらせず、杉原の立場だったら自分はどうするかを考えさせたい。

しかし、杉原の行動を「正解」であるかのように前提にすることは避けるべきである。困難な状況の中では人は簡単には決断できないし決断の内容も異なる。

したがって、「国の命令に逆らうことはむずかしい」とか「自分は杉原のように解雇覚悟でビザを出すことはできない」と考えることもふくめて互いの葛藤から学び、オープンエンドで終わらせ、真剣に考えたことをもって評価したい。

3 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・領事館に押し寄せたユダヤ人たちから通過ビザを求められたが、日本の外務省からは出すなど言われた。なぜ外務省はだめだと言ったのか。教科書の記述から読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科で習った第二次世界大戦のことを思い出させる。 ・教科書の記述ではユダヤ人側に問題があるように読み取れるが、実際にはどうだったのか。当時の国際状況を補足説明する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・杉原は困っているユダヤ人たちを見捨てることはできず、ビザを発行する。これをどう思うかを子どもたちに投げかける。 ・もし自分が杉原の立場だったらどうしたかを考える。グループで話し合うこともできるが、この教材の場合は、各自がじっくり考え、なぜそう考えたかの論拠もふくめて発表させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「発行する」「発行しない」「発行したいができそうにない」などいろいろ出るだろうが、どれが正解かとはせず、杉原はこうしたと確認するに留める。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にビザを出した結果、杉原はどうなったか、戦後の杉原の生活、ユダヤ人たちの問い合わせに外務省はどう対応したかを伝える。 ・人道的な行為は時と場合によっては大変な覚悟が必要な場合もあること、国とか、会社組織とか、大人になったら大きなものと対立することがあるかもしれないし、大人でなくとも難しい判断が迫られるときはあるだろうが、そのときにしっかり判断し行動できる力をつけてほしいと伝えてまとめとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉原については中学校の歴史の授業でも学習することを伝え、興味関心をつなぐ。